

## 移動スーパーで痛感する地方公共交通の重要性

移動スーパー販売ドライバー（パート社員）、中田裕一  
ganmo@ms3.megaegg.ne.jp

### はじめに

移動スーパー販売ドライバーの中田と申します。前職は路面電車の運転士として、地方公共交通が抱える問題を身近に感じながら働いていました。現在は移動スーパーの販売ドライバーとして日々走り回っています。移動スーパーの活躍の場は増えていきますので、お住まいの地域でも見かけたことがあると思います。みなさんは、移動スーパーがどのようなものかご存知ですか？そして、移動スーパーのお客様はどんな方達かご存知ですか？



私も、この仕事を選ぶ前にもある程度は、移動スーパーの役割を知っているつもりでした。実際に働いてみると、訪問する先々で喜ばれ感謝され、日々働き甲斐を感じています。そして、一方で悲しく腹立たしく感じ続けているのです。何が悲しく、何が腹立たしいのかを説明する前に、移動スーパーとはどのようなものなのかを説明します。

### 1. 移動スーパーとは

通販で購入した商品や食材のセット、お弁当の宅配などとは違い、何を買うのかを自分の目で見て選ぶのが移動スーパーです。お弁当やお惣菜、食パン菓子パンといったすぐに食べられるものと、野菜や精肉鮮魚といった材料、調味料や洗剤などの日用品、軽トラックによくこれだけ載せたなあと思わず唸ってしまうほどの品揃え。その中から自分で選んで買い物ができる。何が届くのかわかっている配達とは違い、買い物の楽しみがある。それが移動スーパーです。価格はスーパーと同じです。手数料として、私の移動スーパーでは1点につき10円を頂戴していますが、価格はスーパーと同じ。つまりスーパーの特売の時は移動スーパーも特売で、価格は日々変動していますし、オススメの商品も日々変わっています。出発前の積み込みでは、その日の訪問先を考えてお好みに合った品揃えを行い、訪問時も会話しながらオススメやお得情報をお伝えします。お客様との信頼関係も積み上がっていきます。

### 2. 移動スーパーのお客様とは

移動スーパーのお客様のほとんどは高齢者です。免許返納された方も多いです。いわゆる買物弱者です。昭和の日本なら、子や孫に囲まれ楽隠居して悠々自適に暮らすはずだったのに、高齢夫婦の二人暮らしや、伴侶を亡くされての一人暮らし。子供はマチナカで生活して、週に一度買い物などの面倒を見てくれるだけ。頼りにしていた路線バスなどの公共交通は、減便縮小廃止の連鎖ですし、タクシーもドライバー不足で台数は少ないから順番待ち。大型スーパーの影響で町の小規模店は閉店し、コンビニも来ない。銀行や農協は支店統合され遠くに行ってしまい、郵便

ポストも間引かれる。空き家になった家も更地になると税金が増えるので、荒れるに任せるしかなく、若者はどんどん出ていく。

どんな田舎を想像しました？

このような状況は田舎だけでなく、住宅街でも同じなのです。買物弱者は、移動弱者なのです。

「この前移動スーパーのお兄ちゃんと話してから誰ともひと言も話してないのよ」と、寂しそうに言われた時、日本っていつの間にこんなひどい国になったのか、悲しくて、そして公共交通従事者だったものとして腹立たしくなるのです。

### 3. 悲しい国

人は自由に移動する権利があります。年金生活者であっても、通院や買い物、映画や演劇を観に行き、外食を楽しみ、お出かけして豊かに過ごす権利があります。ところが移動手段が極端に少ないのです。高齢であっても、免許がなくても自由な移動を支えるはずの公共交通が、この国からどんどん消えているのです。移動スーパーは、ますます増えて行くことでしょう。でも、それって正しい豊かな未来なのでしょうか？いまはマイカーを運転してどこにでも行ける人も、必ずその時が来ます。車を手放した瞬間に、見捨てられた移動弱者になるのです。自動運転が普通になって自由な移動を安定して支えてくれるのは、まだまだ遠い未来です。

### 4. 自由な移動を保証するために

公共交通は無駄ですか？儲からない公共交通は不要なものですか？儲かるとか採算性とは何ですか？採算とは運賃箱に入るお金だけを見て決めるのですか？自由な移動によって動く様々な影響から、採算を求めることはできないのでしょうか？

もし、路線バスなどの生活の足の本数が増えて、路線も拡大し、なおかつ運賃が低価格か無料だったらどうでしょうか？そして、それを支えるために公的資金（税負担は増えます）を使ったらどうなりますか？

公的資金に支えられると、バスの運転手さんなど交通労働者の安定した雇用が生まれます。若者が交通労働を選ぶようになります。家に閉じこもっていた人たちが街に出かけてお金を使うと、経済も回りますが、それだけではありません。街に出て歩いて話して刺激を受けて、家に閉じこもっていたときよりも元気になります。健康になるのです。心も体も。健康になるとは、病院に通う頻度が減るということです。巡り巡って、健康保険料負担が減るということです。これだって、公共交通の採算の一部です。税負担は増えても健康保険料負担は減ります。勝手に想像で述べているわけではありません。富山ではすでに答えが出ています。

利用者も交通労働者も地域経済も WINWINWIN です。公共交通の充実がカギを握っています。

### おわりに

それでも取り残される人のためにこそ、移動スーパーは必要なのです。

どうか、あなた自身や大切な御家族が運転できなくなった時のことを真剣に考えてください。

たった一人で移動スーパーを待ち続ける未来を考えてください。

未来は変えられます。変えなければならないのです。